

「日本DMAT(災害派遣医療チーム) 隊員養成研修」へタスク参加してきました



3病棟 濱本 龍

令和4年8月29日から31日の3日間、山口県内で開催された日本DMAT 隊員養成研修にタスクとして参加してきましたので報告します。

私は2012年にDMAT 隊員養成研修に初めて参加しDMAT 隊員資格を取得しました。以後、DMAT 隊員としてDMAT 技能維持研修、ブロック訓練、自衛隊航空機実機訓練、政府総合防災訓練などに参加しています。参加する度に研修資料の内容やEMIS（広域災害・救急医療情報システム）がリニューアルされ、自己の知識も更新し続ける必要性を感じ、この度、インストラクターになるためにタスクとして日本DMAT 隊員養成研修のタスクとして参加してきました。

DMATタスクとは、DMAT 隊員養成研修修了者で研修運営参加を希望する者です。またDMAT インストラクターとは、タスクとしてインストラクター要件を満たしDMAT 事務局より認められた者で、各種訓練や研修などにおけるインストラクションと運営・企画、発災時DMAT 本部活動をマネージメントできる能力などの役割が求められています。

研修は、1日目は、朝8時30分から19時まで座学+ワークショップ、2日目も8時30分から18時30分過ぎまで座学+シミュレーション、3日目は午前中に座学、午後から近隣の空港へ移動しSCU (Staging Care Unit) で実践訓練を行いました。

今回、初めてタスクとして初日の研修開始前のスタッフミーティングから研修最終日まで参加しましたが、インストラクター・タスクとして講師で参加することは教わる側と比べて全く違うものでした。座学でのインストラクションを実践する難しさを改めて実感するとともに、名札に「講師」と表記される責任の重さを痛感しました。また座学やシミュレーションが円滑に行えるように事前の準備がとても重要であることを学びました。

そして何より、全国から集まるインストラクターやタスクの方々との情報交換や交流がもてたことは大きな収穫となりました。

最終日の実践訓練では、研修生に混ざってプレイヤーとして参加しましたが、インストラクターの視点を持ちながら参加することで実践での重要なポイントを再認識することができ、とても貴重な経験を積むことができました。

東広島医療センターが位置するこの広島中央医療圏にはDMATインストラクターがいません。私はまずこの広島中央医療圏における初のインストラクターを目指しています。インストラクターになるにはまだ時間がかかりますが地道に努力して行こうと思います。

